注意点

１：ロシア・ユーラシア研究コースのコア科目は、「共通科目」「人文科学系科目」「社会科学系科目」に分かれているが、これは履修のさいの目安であって、ひとつのカテゴリーの科目を履修しなければいけない、ということではない。

２：「ロシア・ユーラシア地域研究方法論」の履修年次は「２年」となっているが、これは標準履修年次であって、３年次以上でも履修できる。

３：「ロシア語原書講読１・２」「現代ロシア語研究１・２」「ロシア語文献研究A-1,A-2」「ロシア語文献研究B」は、ロシア語学科の学科科目（ロシア語研究科目）としても、ロシア・ユーラシア研究コースのコア科目としても開講されている。学科科目として登録する場合と、コース科目として登録する場合で、科目コードが違う。後になって、学科科目をコア科目に、コア科目を学科科目に移し替えることはできない。

４：「ロシア語原書講読１・２」「現代ロシア語研究１・２」「ロシア語文献研究A-1,A-2」「ロシア語文献研究B」は、コース科目のコア科目として履修する場合も、ロシア語Ⅱの単位修得済みでなければ履修できない。

５：第二主専攻の学生は、演習４単位が必修。ただし、留学等の事情がない場合は、同一の演習を２年続けて履修するのが原則（余った４単位は、「その他」に充当）。卒論は、演習担当の教員の指導で執筆（必修）。

６：副専攻の学生でも、演習は履修できる（履修が望ましい）。修得した単位は、「その他」に充当される。卒論執筆はできない。

７：14年時生であれば、ロシア語Ⅱを履修中の者も、時間割が許す限りにおいて、演習の履修は可能。ただし、事前に担当教員に相談しなければならない（履修を認められない場合もありうる）。

８：第二主専攻から副専攻への変更は１度だけ可能。卒業を予定している年次の秋学期の履修放棄期間に学部事務室に「専攻変更願」を提出。卒論を放棄しただけで自動的に変更ができるわけではない。

９：副専攻から第二主専攻への変更は原則として認められないが、演習担当の教員と相談の上、相当の覚悟をもって臨むのなら、認められる場合がある（１度のみ）。「卒業論文・卒業研究１」の履修登録時に「専攻変更願」を学部事務室へ提出。